

岩崎構成員意見

- 運用実証事業について
 - 具体的な内容が出てきているため、プロジェクトが何を目的としているかというところが分かりやすくなった。
 - 地域等のメタデータについては、コード化している部分と文字列で入力している部分があるということを明確にしていただけると、課題が明確になるのではないか。
 - プロジェクト固有の課題と共通の課題とが一覧できるように発表してもらいたい。

- ガイドラインについて
 - 長期保存のガイドラインを作成する際には、デジタルアーカイブの弱点である「保存性」「再現性」について、きちんと記載してほしい。
 - ◇ 例えば、再生機器が古くなるとか、データはあっても再生機器がなくなってしまったとか、OS のバージョンアップがあり利用できなくなったなどの問題がある。アプリケーションに依存しない形でデータを保存すべき。
 - ◇ クラウドを利用した場合、ローカルにもバックアップを取っておかないと、データ形式が限定されてしまったり、事故や急なサービス停止によりデータが消失してしまったりする可能性もゼロではない。
 - ◇ マイグレーションも必要だが、コストとのバランスで考える必要がある。
 - 運用実証の成果も踏まえ、これからデジタルアーカイブを作ろうと考えている人に対して、このような問題があるということをきちんと意識づける記載が必要である。

- 事業全体について
 - 自衛隊、警察、消防が撮影した映像は、国がきちんと保存すべきである。一般の資料と同じ保存期限に達したら廃棄する、というようなことにならないようにしてほしい。関係機関に対して、まずは消さないでほしいということを伝えていただきたい。
 - API 公開すると自分たちとは全く違う発想でサービスを作ったり、タグ付したりする人が現れ、それが刺激になる。デジタルアーカイブ成功の鍵はソーシャル化することにあると考えている。
 - ◇ 例えば被災資料であれば、防災、土木の研究者など、まずは閉じたグループでよいので、ソーシャルタグをつけてもらうといいのではないか。
 - ◇ みちのく震録伝ではみちのく震録伝の API を活用した事例が一覧化され

ており、非常に便利。同様の機能があればうれしい。資料提供者に対して、成果をフィードバックできるようにしたほうがよい。

- ▶ こういった事業を行うと各地でメタデータを付与するという仕事が発生し、デジタルアーカイブ構築に関する底上げになると考えている。その動きを維持発展させる仕組みのようなものを作ってもらえないかと期待している。
- ☆ 例えば、ボランティアベースでメタデータ付与している人が、実績あるアーカイブでその作業を何年間かやった場合はデジタルアーキビスト資格として認められるなど。